

鹿大教職組ニュース

2016年度中央執行委員長からご挨拶 - 鹿児島大学に勤務される教職員の皆様へ- (北原).....	1
学長との懇談会についてご報告 (丹羽)	2
2016年度全大教九州教研集会 (佐賀大) のご報告 (丹羽)	2
教研集会農場職員分科会のご報告 (谷村)	2

2016年度中央執行委員長からご挨拶

鹿児島大学教職員組合員の皆様をはじめ、鹿大の全教職員の皆様に対しまして、今年度の組合中央執行委員長よりご挨拶申し上げます。

鹿大教職員組合は労働組合法に基づく団体であり、組合規約にある存在目的は、「この組合は、組合員の賃金、労働時間、その他の労働条件維持改善と、大学の民主化を目指すとともに、あわせて組合員相互の親睦を図ることを目的とする。」としています。私たちは小さな団体ではありますが、その活動は大きな鹿大教職員全体の労働環境の改善に及びます。

私たちの重要な活動の一つ目として“学長交渉”があります。学長交渉では、学長や理事、事務局の要職の方に対して、具体的な事例を挙げて職場環境の改善策を提示し、実現に向けて理解を求めます。この機会はとても貴重である一方、組合員以外のご意見は反映できませんので、多数の教職員の皆様にご加入頂いて幅広い意見を集約することを望んでいます。大学の要職に就く方との交渉において、職場関係を気にする方もいるかもしれませんが、団体として交渉しますので改善を提案した個人が不利益を受けることはありません。ご心配は無用です。

二つ目の活動は組合員相互の親睦です。組合には部局を中心とした各支部組織があり、それぞれの支部で個人が抱えている不安や要望を聞く機会を設けています。各支部からの要望を集約し、先に述べた学長交渉の題材として取り上げていきます。また、本学の学部や職種、職層を超えた組合員間の交流の場として、学習会や懇親

－ 鹿児島大学に勤務される教職員の皆様へ －

農水産獣医学域農学系教授 北原 兼文

会、音楽鑑賞、スポーツ観戦などを企画しています。更に、九州地区や全国の大学の教職員組合との交流にも積極的に参加して情報を収集し、そして組合員の皆様にも有益な情報を提供しています。

三つ目の活動は、職場における組合員の人権保護です。働いている時に理不尽な処遇を受けたことは無いでしょうか？このような場面は無いことを望みますが、その処遇が不当であれば、私たちは組合員を守るために団結して行動します。

昨年度は執行部のご尽力により組合運営が見直しされ、事務局の再編や組合規約と会計規則の改正、ホームページのリニューアルなどが行われました。昨年は組合改革が中心となりましたが、今年度執行部ではいち早く組合活動の正常化を図るとともに、健全な組合運営の継続をお約束します。最後に、組合員各位のご多幸を祈念しまして、今後の組合活動へのご理解とご協力をお願い申し上げます。また、全ての鹿大教職員の皆様に対しまして、私たちの活動をご理解頂き、鹿大教職員組合へご加入下さいようお願い申し上げます。多数の組織となること、それは大きな“力”となり、私たちの職場環境をより健全なものにします。ご質問やご興味を持たれた方がいましたら、下に記載しています組合事務室に遠慮なくご連絡下さい。



鹿児島大学教職員組合事務局

受付時間：月－金、9:00～17:00

Tel (099-285-7285), Fax (099-285-7286)

e-mail (ka-kumiai@leaf.ocn.ne.jp)

HP (<http://ka-kumiai.jp/>)

学長との懇談会についてご報告

2016年度書記長 丹羽 佐紀



島理事（左）、前田学長

平成 28 年 7 月 29 日(金)17 時 40 分から、本部第 1 会議室(2階)に於いて、学長との

懇談が行われました。大学本部執行部からは、前田学長、島理事、大園総務部長、通山人事課長、他 4 名が同席されました。また組合執行部からは、北原委員長、宮下副委員長、丹羽書記長、日吉書記次長、および今井執行委員、東組合職員が出席しました。会談ではまず、ここ数年、大学と組合双方の懸案事項となっている、あおぞら保育園の現状と今後の見通しについて、話し合いが行われました。大学側ではどのような方向性を検討しているのかという組合からの質

問に対し、執行部からは、敷地をめぐる問題、組織上の位置づけなど、今すぐには解決が困難な点もいくつかあるが、職員がより良い労働環境の中で安心して働けるよう、前向きに検討していきたい、との回答がありました。また、大学の地域貢献をどのように考えているか、「鹿児島大学でなければ」と地域の方々を感じてもらえるための取り組みについて、組合執行部から出された質問に対しては、地域と世界を視野に入れたネットワークを築くために今後も力をいれたい、と執行部からお話がありました。



懇談会の様子

2016 年度全大教九州 教研交流集会(於 佐賀大学)のご報告

2016 年度書記長 丹羽 佐紀

2016 年 8 月 20 日(土)から 8 月 21 日(日)にかけて、猛暑の中、上記交流集会が開催され、鹿児島大学教職員組合からは教員 4 名、技術職員 1 名、計 5 名が参加しました。初日は、全体集会ならびに、日本女子大学の臼杵陽教授による「激動の中東イスラーム世界と向き合う—ISをどのように捉えるべきか?」と題した記念講演があり、その後テーマごとに 5 つの分科会に分かれ、討議が行

われました。どの分科会でも、各大学の様々な事情について情報・意見交換がなされ、有意義な時間を持つことができていたように思います。2 日目は、職種ごとの分科会で、現在の労働実態や問題点などが各単組から紹介されました。以下に、鹿大教職組から参加された谷村さんの報告を紹介いたします。

教研集会農場職員分科会のご報告

農学部指宿植物試験場 谷村 音樹

参加者 6 名(九大 1 名 佐賀大 3 名 宮大 1 名 鹿大 1 名)

農学部の附属農場がある 4 大学の技術職員が集まり、毎年 2 月に九州農場部会という集会を行い、各大学の待遇や問題点などを話し合ってきたが、今回は佐賀大学より組合の交渉で、正月の当番等で休日出勤の際、代休だけではなく別途手当を支給してほしいという交渉をしているという話があり、各大学では当番等での休日出勤はどのようにしているかを教えてほしいという事で、各大学が現状を報告した。どの大学の農場でも当番で休日出勤をしている部門があるが、休日出勤をした分は代休をとるだけで別途手当を支給されている大学はなかった。

佐賀大学より、ほかの大学も正月など国民の休日に出勤をしているのだから代休だけではなく手当の支給について組

合をとおして要求してはどうか。どこかの大学で休日出勤の手当が支給されることがあれば、支給されてない大学でも手当の支給を受けることができるのではないかという意見があった。

農場職員の組合員の減少についても各大学の報告があり、新規採用の職員がなかなか組合に加入してくれないという意見があり、農場部会で各大学との交流があるなど組合の魅力伝え組合に勧誘していくようにしようという事になった。

そのほかにも、農場予算・労働条件・農場と研究室との関わり・公開講座など 2 月の農場部会以降の各大学の状況について意見交換を行った。

最後に来年 2 月の農場部会開催(2 月 4・5 日 当番校九州大学)の確認を行い終了した。